

令和 7 年度第 2 回 珠洲市総合教育会議

会 議 概 要

- 1 開催日時 令和 8 年 3 月 2 4 日 (火)
開会 午後 1 時 2 9 分
閉会 午後 2 時 4 0 分
- 2 開催場所 市庁舎 3 階会議室
- 3 出席者 ○珠洲市 珠洲市長 泉谷 満寿裕
○珠洲市教育委員会
教育長 吉木 充弘
教育長職務代理 濱 育代
委員 葛原 秀史
委員 刀祢 喜春
委員 畠山 義邦

○事務局関係
総務課 課長 加賀 真樹
課長補佐 石尾 泰宏
教育委員会事務局 事務局長 岸田 和久
参事(兼)次長 太佐 真一郎
次長 徳田 聡美
次長 前田 保夫
次長 山下 裕子
主幹(兼)係長 河崎 裕子
- 4 傍聴者 1 名
- 5 会議内容 別紙のとおり

1 開会	
泉谷市長あいさつ	お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。 学校の再編・統合について、より魅力ある教育環境についてですが、昨年の10月から、年が明けて今年の1月にかけて、市内の小学校・中学校・義務教育学校全11校と、つばき保育園の保護者の皆様と意見交換をさせていただいたところです。 私自身といたしましても、このところの出生数について、令和6年生まれの珠洲市のお子さんが35名。令和7年生まれの珠洲市のお子さんが20名という状況です。そしてまた、宝立小中学校と大谷小中学校の一部を除いて、いずれの学校も校舎の老朽化が進んでいる。将来的に全てを建て替えることは、財政的に非常に困難であることも、改めて考えながら意見交換もしてまいりました。 新たに校舎を整備することを進めても、早くても令和11年度ぐらいまでかかってしまうから、2030年の春までに間に合うのかといったこともあります。 そんな中で、各学校の保護者の皆さんも、それぞれ温度差があるというか、直ちに一日も早く統合してほしいという雰囲気のある学校があれば、少人数のいいところもあるので、どちらかということは決めかねるとか、非常に迷っていらっしゃるとか、あるいは統合するにしてもそれほど急がなくてもいいですよというご意見もあつたりしました。 いずれにしましても、まだ数年かかりますので、その間、この少人数学校ですが、いろんな複数の学校同士で授業をするとか、合同授業とか、あるいは昨年の秋、初めて連合運動会も実施しましたが、いろんな工夫も、もちろんこれからもしっかりと進めていかなければならない。そしてまた、特にお祭りとか、伝統文化の継承についても、学校が統合されたときに、どういう形で守っていくのか、あるいはより発展をさせていくのかといった課題もございますので、本当に難しい課題ですが、来年度、できるだけ早く具体的な検討を進めていかなければならないという認識です。 その際、より魅力ある教育環境のあり方検討会のメンバーをどういう構成にするかといったこともございます。過去には、各種団体の長が構成メンバーということでもありましたけれども、私の個人的な思いとすれば、検討会を設けるとすれば、各学校のPTAの代表の方、全てメンバーに入っていただきたいと思いますし、後々の伝統文化の継承も考えますと、各地区の代表の方、地区の区長会会長さんになるのかもしれないと思いますが、そういった方々が入られた検討会であるべきではないかと考えております。 改めて、各学校での意見交換会の内容をご説明申し上げますので、またご意見を賜りたいと存じます。そして、本日の総合教育会議ですが、もう一点、教育職員の多忙化の改善についても議題とさせていただきたいと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。
吉木教育長あいさつ	泉谷市長におかれましては、日頃より、教育委員会所管の事業推進に多大なご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。また、教育委員の皆様には大変お忙しい中、昨日の教育委員会議に引き続き、本日の珠洲市総合教育会議にご出席をいただき、ありがとうございます。

	今年度も残すところ数日となり、本日学校で 3 学期の終業式、そして 7 年度の修了式が行われ、明日から子どもたちは学年末、そして学年はじめ、春休みとなります。いずれの学校におきましても、滞りなく式が行われたと聞いています。そういった中で、緑丘中学校ですが、インフルエンザが感染拡大をしまして、今日は午前中で打ち切るということで、昨日、今日と、少し早めに春休みがあったと聞いております。 また、本日 9 時に教職員人事定期異動の発表がございました。珠洲市におきましては、新たに令和 8 年度、5 名の新任校長をお迎えすることとなります。 本日の総合教育会議ですが、今ほど市長からもありましたが、より魅力ある教育環境のあり方について、そして業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について、泉谷市長と教育委員会が想いを共有し、これまで以上に十分な意思疎通を図り、より一層、市民の皆様の想いを反映した教育行政の推進を図ることができればと思っています。そして、今後とも皆様方のご理解とご支援、ご指導をいただきながら、さらに本市の教育環境も充実しますように、教育委員会としての役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。本日はどうぞよろしくお願い致します。
2 議事	
(1) より魅力ある教育環境のあり方について	
事務局	【各学校での意見交換会の大きな内容について、資料を基に説明】
泉谷市長	改めて、教育委員の皆さん、この件についてご発言があればと思いますが、やっぱり小学校 1 校、中学校 1 校ということは、これはあまりよろしくないのかな。選択肢がないのは厳しいのかなと思いますので、統合小学校あるいは統合中学校に加えて、大谷小中の方は地域の皆さんはぜひ残してほしいということでもあります。 そんな中で、こういう小中学校をどうするかということと、あと距離の問題からすると、三崎をどうするかはものすごく難しいと思います。三崎中は既に緑丘中学校に通っている、三崎地域だけれども緑丘中学校という生徒の方もいらっしゃいますし、この春、三崎中には、本来ですと 7 名入学する予定が 2 名だったかといったようなこともありますので、三崎中をできるだけ早く緑丘と一緒にした方がいいのか、その時にみさき小は残すべきなのか、なかなか残すのはやっぱり難しいのか、そのあたりも含めて、宝立と三崎が特に難しいという思いではあります。
濱 教育長職務代理	昨年度のこの時期に、この会を開いていた時の流れと、今こうやって復興が進んでいっている中での声というのが、少しずつ変わってきていると思います。 私、大谷の人間なので、大谷の人たちの思いというのは頑として変わらないところがありますが、他の学校の人たちと色々な意見交換をしているときにも、本当に震災で大変で、これから先どうなると言っていた頃は、早く学校をどうにかしなければという思いが非常に強かったと思います。

	ただ、学校だけで視点を当てたときも、私は、珠洲市の教育委員さんの教育行政は質が高いし、温かみがあるし、それから将来性をすごく視野に入れた中で、いろんな取り組みをしてくださっている。そういう取り組みが、子どもたちや先生や保護者の皆さんにとっては、少しずつ安心の種を撒かせてもらっていた。それが今回の、いいところ残したいよねとか、小さくても頑張れるかもしれないとか、そういうところにつながってきているなど。教育行政の質の高さや、取り組みのやり方とか、そういうことがすごく、その後を支えてくれた時間の中での影響だと思っています。 去年私が話した時に、全国の小さな学校へ行って、オンライン授業や、対面授業や、そういうものが非常に子どもたちの教育の質を上げる。先生方の、教育をする側の質も上げるというお話をさせていただいたと思いますが、いち早く取り組んでいただいて、蛸島小学校へ私たちが学校公開でお伺いした時に見せていただいたオンラインの授業、本当に素晴らしかったです。空間を通り越して、正院と蛸島の2校が1つの教室というような形で、先生方は非常に高いオンラインの授業を見せてくださいました。 それは先生方の頑張りもありますが、教育委員会の皆さんは細部にわたって指導をしてくださっている。それから機器の準備等も行政側がいろんな手配をしてくださっている。そういうところで、オンライン授業や、対面授業をするのを、また保護者や地域の方々が見る中で、「あ、大丈夫かもしれない」という想いも広がったのが、この結果に少しずつ現れているのではないかと思います。本当に素晴らしい授業でした。年間にしたら、多分70~80回ぐらいはオンラインの授業をしたり、20~30回ぐらいは対面授業もされたりしているのではないのでしょうか。 先ほど、どんな形になって、新しい流れを汲むとしても準備期間が、準備年数がというお話がありましたが、そこら辺は、今のこの形を構築していつているならば、たとえばいくつの学校になったとしても、質の高い、保護者にとって安心できる教育内容が展開されていると思います。そういうことを受け止めながら、どんな感じでとか、どこでとか、どんな形でというのを、構築していけばいいのではないかと思います。
刀祢教育委員会委員	地震前、十数年前から、保護者の周りでは、早く合併した方がいいという意見が多々ありました。地震後にも、周りはもう早くしろ、早くしろという意見がある中で、宝立地区での意見交換会に参加をさせていただきましたが、14名の少ない参加ですけれども、半分半分ぐらいだったのかなという印象を受けました。 今の形で小規模で、生徒との距離が近い、そういう環境は子どもたちにはいいのではないかという意見も多々あった中で、PTAのアンケートで、70%以上の方が統合に賛成という意見がありました。すごく大きい数字だと感じていて、つばき保育園ではもっといるということなので、今後を見据えれば、つばき保育園の意見はすごく大きいのではないかと感じています。 違う話ですが、最近よくマスコミ、テレビなどで放送された、河合谷小学校。今年で100年経つということで、大正時代に老朽化した学校を地域と先生方でどうすればいいのかという話の中で、地域の住民を交えて、地域全体で禁酒をして、飲んだつもりで1日5銭募金をしょ

	うということで、5年間の計画を見据えて、それを達成したと。これは地域住民が子どもたちのことを想って学校を作ろうとなったのですが、それは今の珠洲市としても非常に大事な時期ではないかと思っています。 保護者の意見もそうですけれども、地域の方の意見も非常に大事だと思っていて、地域、学校、行政との意見交換会というのにも必要になるのではないかと感じています。 一保護者としても、今、本当に子どもたちのために一番大事な時期だと思っているので、大人たちが本当に責任を持って行動していかなければいけないと非常に感じています。
泉谷市長	宝立小中学校のふるさと珠洲科の発表を私は残念ながら拝見できなかったのですが、非常に内容が良かったということをお聞きしています。やっぱり宝立の児童生徒が、宝立のこれから復興に向けて何をすればいいのかということを真剣に考えていただいている。具体的な企画といえますか、立案もされている。これが市内で1校になってしまうと、そういったところまで想いを巡らせるでしょうかというのはありますね。だから、地域ごとの学校の良さというのはものすごくあります。 ただ、先ほど申し上げましたように、生まれてくるお子さんの数がこれだけ減ってくると、致し方ない面がありますが、答えを見つけていかなければならない。ここが本当に難しいと思っています。だから宝立小中をあえて残すとしても、宝立の児童生徒が、例えば統合小学校、統合中学校に行ったり、あるいは違う地域の小中学生が宝立の校舎に通ったりとか、いろんなパターンを柔軟に想定しながら考えていく必要もあるだろうなと思っています。
畠山教育委員会 委員	私は統合に関しては地域の方と話をしたことはございません。ですが、私は今、みさき小学校のグラウンドの仮設におりまして、小学生が、たまにイベントがあるときに案内に来ます。昨日もコンサートがありまして、先週、3年生ぐらいの子が2人でやってきて、ぜひお越しくださいと。行きましたら、地域の方が結構来ておられまして、そういう面に関しては比較的に、地域に学校があるのはいいのかなと感じました。 しかし、子どもの数等を考えれば、先ほど小学校の卒業生7名のうち2名が三崎中学校ということで、駐在さんの子どもさんが1名増えて、3名が中学校へ入るそうですけれども、去年は5名卒業でゼロといった状況を考えれば、これから小学校は存続しても中学校はどうなるのか。子どもの考えと、それから保護者の方の都合だとは思いますが、中学校の維持は難しいのではという気がしないでもありません。 地域に学校がなければならぬか、学校が地域の拠点になるのかといえ、大谷は別としまして、他のところは学校がなければ地域が崩壊することにはならないのではという気はします。 大学のように学校があることで学園都市ができて、ということとは違って、三崎は20年ほど前に小泊と本が統合して、粟津でみさき小となりました。小泊小学校は金大が活動をしています、本小学校はかつて一休さんという名前で喫茶店をしていましたけれども、今は空きに

	なって寂しい状態です。地域の方もほとんどいなくなってしまったこともありますけれども、学校の校舎があってもこのような状態になっています。 こうなれば、学校があることでのある程度の活性化はできるのかもしれないかもしれませんが、子どもはある程度まとまっていた方がいいと思います。競争や体育に関しては、2、3人の学校で体育できないわけではないですが、団体競技、バスケットやバレーができずに陸上、卓球や個人競技しかできない。それはかわいそうじゃないかなという気はします。 今後、子どもは少人数の中ではなくて、高校が終われば多数の中に出なければならない。様々な考え方の人と一緒に生活しなければならないので、そういう面を考えれば、ある程度まとまった人数の中で切磋琢磨した方がいいのかなと思います。 みさき小学校に通っている子どものおばあちゃんから、どこかの学校に行く合同授業があると聞きます。こんなわざわざ行くのだったら、あっさり統合してくれればいいなとこの方はおっしゃっています。だから地域の方も、少ないよりもある程度まとまった方がいいと考える方が、ある程度おられるのではないかと思います。 この件に関しましては、これからまた、地域の方とも機会があればお話を聞いてみたいと思います。
葛原教育委員会 委員	先日、ある小学校の卒業式で市長さんと一緒に学校の卒業パンフレットを見て、校章一つにも、やっぱり学校には地域の伝統文化、地域の存在、歴史がずっと培われてきたということを改めて認識しました。 私は昨年この会議においても、統合に反対意見を述べた一人ですが、地域に学校があるというのは、その地域のそれぞれの性格、行事、歴史、今まで培われてきた伝統文化、それらを体現しているのもまた学校ではないかなと。その地域の学校だという想いはすごく持っていて、だから未だに統合した姿が想像できないのが正直なところです。各地区の子が一緒になって、一つの学校になる姿がちょっと想像できない。まだそういう気持ちです。 ただ、それからずっと教育委員として、学校公開の時に授業を見せていただいたり、あるいはこの教育委員会の中で教育委員さんといろいろなお話、議論を交わしたりする中で、やっぱり先ほど市長さんが言われたように決定的なのは、これからの子どもの出生数が少なくなるといった将来的なことを見据えた点、それから学校を回っているのは、授業を見た時に、確かに手厚い指導は少人数ではいいところもあるのでしょうけれども、先ほど畠山委員さんが言われたように、これから高校、それからまた大学、社会へ行った時に、大勢の人数の中で生きていかなければならない。そうしたコミュニケーション能力的なものが、少人数ではなかなか培われないのではないかなという想いも強く感じていました。 今、飯田高校のPTA会長をずっとしてしまして、高校になるとまあ人数は増えて、各クラス20人程度ですけれども、その中でもかなり今の高校生は、人間関係にすごく苦労していて、トラブルも実はあります。そんなことを思うと、ある程度人数が多いところで、教育や活動を行った方がいいのではということで、正直、私も本当に揺れ動いて、少しは統合に傾いてはいるのですけれども、ただそうしてしまうと、結

	局その地域に学校がなくなって、その後の伝統文化や行事、地域に伝わってきたものをどう継承していくかというケア、公民館等が担うことにはなるのでしょうけれども、そういうことも考えれば、先ほど市長さんが言われたように、検討委員会では教育関係者はもちろんですが、保護者や、地域の方を交えて、一番魅力ある教育環境とはどういうものなのかを議論していけばいいかなと思うようになってきました。 本当に今、一番決定的なのは、刀祢委員さんが言われたことで、やっぱり友達がいらないというのは、子どもにとってはいろんな手厚い指導ももちろん大事ですが、友達関係がこれから大人になっていく中で一番大事、必要になってくることだと思うので、そのためにもある程度の人数は必要かなと思ってきました。
泉谷市長	はい、ありがとうございます。 今の私の想いとすれば、冒頭少し申し上げましたように、来年度できるだけ早く、6月を目途に検討会を立ち上げられればという思いです。あとは、令和6年に生まれたお子さんが35名ということもあります。それからすると、その子たちが小学校に上がるまでには、なんとか体制を整えたいという想いもあります。ただ、もうすでにつばき保育園の子どもたちも各学年少なくなっています。記憶からすると、年間60名ぐらい生まれていたはずが、35名になり20名になりと思っていたのですが、もう今すでにつばき保育園も少ないです。だからもう抜けてしまっているところもあるので、それからいくと、令和6年生まれの子どもたちが入学するまでにということでもないのかもしれないけれども、でもここから4年、5年ぐらいで整備するべきなのかなと思っています。 そうしますと、来年度、検討会を立ち上げながら、新たな学校をどうするのか。例えば緑丘中学校、これは前に申し上げたと思いますけれども、緑丘中学校の校舎を少しずつ解体して、そこに中学校、小学校を建てていくのか。あるいは緑丘中学校の校舎については、また新しい中学校として今後整備をし、それとはまた別の場所で、小学校の土地をまず求めて、そこで整備をしていくのか。そうすると、新しい小学校となると、グラウンドも体育館も、もしかしたらプールも、あるいは相撲の土俵も、全部フルセットでやると50億ぐらいかかってしまうのかな。そういう予算的な問題もありますけれども、どの場所でどんなイメージということも考えやすいように、とりあえず来年度、令和8年度は、魅力ある教育環境のあり方検討に係る予算として3,000万円を見ています。これはコンサルタントの委託料ということになりますので、基本構想的なところまでは発注できると思います。それで検討会と検討業務の発注と両方並行していけば、少しは期間を縮めていくことができるのかな。そう言いながらも、令和9年度に実施設計にかかったとしても、建築に2年ぐらいかかりますから、結局30年の春に間に合うかどうかぐらいのスケジュール感かなと思いますが、そういう形で進めていければと思っています。 先ほど申し上げましたように、検討会のメンバーについては、できるだけ各学校から1名は代表として出ていただきながら、各地区の代表の方も、全員なので10名ということになりますけれども、あと各学校代表、つばき保育園も含めると12ですよね。そこだけでも22名とい

	うような構成メンバーになってしまいますけれども、そこにまた校長会の方ですとか、学識経験者ですとか、そういう方も含めて少し人数が多くなるかもしれませんが、今のところ、私のイメージですけれども、そういう検討会の構成になるのかなと思っていますが、そういう進め方についてのご意見はございますか。 先ほど葛原委員さんからは、できるだけ各学校の代表、地域の代表ということでいいのではというようなお話もございましたけれども、あと何かご意見、その部分についてございましたら。 大体そのような考え方でいいですか。
	【異議なし】
泉谷市長	年度が変わりましてから、また少しその辺も含めて進めていきたいと思っています。
(2) 業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について	
事務局	【教職員の多忙化改善実施計画の内容について、資料を基に説明】
吉木教育長	全国的な流れで致し方ない面もありますけれども、時間外在校等時間を月平均 30 時間以内に減少する。そして、月 80 時間を超える教職員をゼロにするというのが、この 4 月から、これは全国どこでもそういったことが目標となります。 かつて、私が学校にいた時なんかは、それこそ部活動で、土日もなく、毎日、本当に子どもたちと一緒にやっていて、それがあつた面、楽しみであった部分もたくさんありますけれども、多忙化改善の流れの中で、こういったことが出てきているということです。 そういった中でも、本市において 2 ページを見ていただくとわかると思いますが、以前から見れば、随分と教職員の時間外在校等時間も改善されてきています。また部活動におきましても、県内他地区よりも先んじて地域展開をして、一部、大谷小中学校の卓球部だけ、受け皿となる卓球協会がありませんので、外部の部活動指導員を雇ってこれまでも対応してきていますし、4 月からも同じように部活動指導員で対応していきたいと考えています。そういった面では、全ての部活動において地域展開がなされている状況です。 他の地区よりも、私は学校が担うことがかなり多々あるな、地域の行事ですとか、いろんなことで学校が果たす役割というのは大きいものがあるなと思いますけれども、少し難しく、これから考えていかなければならないのは 5 ページにありますように、学校と教師の業務の 3 分類の中で、学校以外が担うべきこと、そして教師以外が積極的に参画すべきこと、教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務ということで、学校、保護者、地域それぞれが何を担っていくのかというのは、今後考えていかなければならないと感じています。 登下校時の通学に関しても、学校の先生方は 1 日、10 日、15 日、20 日というようなところで、地域の方、保護者も含めてですけれども、学校の先生も出ていた。出ているのが現状だと思いますけれども、ここにありますように、今後は学校以外が担うべきと示されてきているところ、そういったことは本当に地域の実態にうまくマッチしていくのかなという部分は結構難しいものがあって、こういった面も学校、保護

	者、地域がしっかりと想いを共有しながら勉強していかなければならないと考えています。 そういったこともありますけれども、全ての学校に学校運営協議会がありますので、またそういった場で、より良い形になっていけばと思っています。
泉谷市長	ありがとうございます。皆さんいかがでしょうか。今ほどの件につきまして、何かご意見・ご質問ございませんでしょうか。
畠山教育委員会 委員	一点、質問をお願いします。2 ページ・3 ページの中で、時間外在校等時間とありますが、定義はどうなっていますか。例えば、朝、勤務時間が 8 時 20 分からだとすると、8 時 20 分に行く人はいませんよね。どういう職場でも、少し前に行くわけですね。8 時とか、7 時 50 分とか。その時間でいけば、8 時に行けば 20 分の超過だけれども、そういうのも含むのか。それと、例えば 16 時 50 分に終業した時に、帰っても何もすることがないので世間話をしていた。そういう時間も含んでいるのかどうか。それはどうですか。
事務局	学校は、タイムカードはないのですが、タブレットを使って学校に入ったときに出勤開始、学校から出て行くときに退勤と記録しています。ですから、勤務時間の前も当然含まれますし、勤務時間が終わった後も含まれます。あと、今のお話の中にあつた、放課後の雑談も含まれるのかということに関しましては、今、働き方改革を進めていますので、業務が終わりましたら、速やかに皆さん帰りましようと言っていますので、あまりそういうことで長い方はいないのではないかと思います。学校に来た時間に記録、学校を出た時間に記録して、その前と後ろを合わせた時間外の合計、平均となります。
畠山教育委員会 委員	となれば、これはゼロにはなりませんね。朝は必ずどれだけか時間外になっていますよね。その分、先生に早く帰ってもいいということであれば、ゼロにはなりますけれども。
事務局	なりませんので、それも含めて月 30 時間以内、年間合計 360 時間以内という設定がされていると考えています。
濱 教育長職務代理	先ほど部活動の地域展開の話が出ていたと思いますが、県の教育委員の会合でも、このことがいろいろ話題になっていて、地域の皆さんに部活動を担っていただくという部分では、土日など、珠洲市は非常に進んでいます。多くの郡市から、どうしたらそうやって地域の人々が協力体制を取ってくれるのかとよく質問されるほど、珠洲市の土日の部活動展開はうまくいっていると思います。
泉谷市長	ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。あと、事務局あるいは教育長の方からこの件で何か補足等々ございますか。これは今年度末に策定するという形でいいものですか。

吉木教育長	これは、総合教育会議に諮った上で公開すると決められていますので、今日、皆さんにお示しして、ご了承を得られれば公開していく形になります。
泉谷市長	先ほどご質問、そしてまたご意見も頂戴しましたがけれども、特段、この内容につきましては、皆さんこれでご異議はございませんでしょうか。総合教育会議の方で、お認めいただいたということですのでよろしいでしょうか。
	【一同了承】
(3) その他	
泉谷市長	私から一つ。今ほど部活の地域移行のこともありましたが、なかなかそうは言っても、児童生徒の人数そのものが減っている中で、以前であれば、部活に関わる経費については、保護者からまんべんなく広く集めることもできたのが、児童数がわずかになると、なかなか遠征の費用や大会出場にかかる経費について、保護者だけに負担させるのも難しいけれども、これは教育委員会から出ないのですか、という話もありますが、そのあたりは難しいですね。 もっと具体的に言うと、相撲連盟で、今、大会に参加する児童が1人しかいなくなった。いろんな大会にエントリーするにも費用もかかるけれども、その保護者1世帯だけに負担をかけるのも難しい。1人しかいないから、広く徴収するわけにはいかない。そういったあたりを教育委員会から何か補助はありませんかといった話です。
吉木教育長	多分その1名は小学生ですよ。中学生であれば部活動なので、部活動の学校安全といったところで補助していますが、小学校になりますと、ミニバスや相撲など習い事の一環としての形になるので、そうするとサッカーをやっている子もいれば、野球をやっている子もいれば、空手など、習い事はたくさんあるので、広く考えるとピアノなどもそうですが、なかなか難しさがあります。
泉谷市長	相撲に限らず、今後、児童生徒数が減ってくると、そういう資金的に厳しいというのもあちこち出てくると思うので、そこをどう教育委員会として対応していくのか、全部までは対応が難しいのか、またいろいろと考えていかないといけないですね。
泉谷市長	総合教育会議にご協議いただきましてありがとうございました。また、今後とも機会を見て総合教育会議を開催したいと思います。 もうすぐ年度が変わることになりますけれども、まずは、より魅力ある教育環境のあり方について、こういった形で検討会を立ち上げて進めていただくかといったことについても、皆様方からのご意見も賜りながら進めてまいりますので、どうぞ今後とも引き続きよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

【 終了：午後2時40分 】